

学習進度に合った 使いやすさの工夫

——『ジーニアス英和辞典 第5版』と比べて

畠山利一



■はじめに

辞書は学力に合ったものを使わないと十分に役に立ちません。このたび改訂された『ベーシックジーニアス英和辞典 第2版』(BG2)は中学上級から高校初級の学習者を想定して編集されています。より上のレベルの学習者を対象とする『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5)とは多くの点で異なっています。

BG2は、より見やすく、使いやすい辞書になるようさまざまな工夫をこらしています。G5と比較しながら BG2の特色を見ていきましょう。

■語義をまとめる

辞書には語義を大きくまとめるタイプと細かく区分するタイプがあります。BG2は大きくまとめています。この辞書では語義を細分するよりは大きく意味をとらえることが重要だとの考えによります。例えば accurate では G5は4つの語義があります。

- 1 <情報・計算などが> 正確な、間違いのない。
- 2 <数字などが> 正確な。
- 3 <機器が> 精密な。
- 4 <武器・射手が> 標的をとらえる、正確な。

BG2ではこれを1つにまとめています。

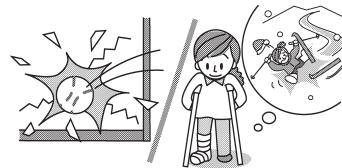
正確な、間違いのない；<計器などが> 精密な。

ここで大事なことは、語義数は少なくなくても内容は大きく減少していないことです。語義数が

減って中身もやせてしまっただけではありません。語義のコア部分を保持しながら、細かな違いにこだわらず、大きく語のイメージをとらえることができるでしょう。

■イラストによる解説

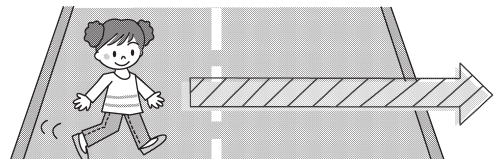
語義をイラスト化すると印象に残りやすい。BG2の特色の1つは基本語の図版が多いことです。例えば BG2の break では「break a window 窓ガラスを割る」、「She broke her leg when she was skiing. 彼女はスキー中に脚を骨折した」という用例に下のようなイラストを付けています。break が日本語の「割る」の意味にも「折る」の意味にもなることが一目で分かります。



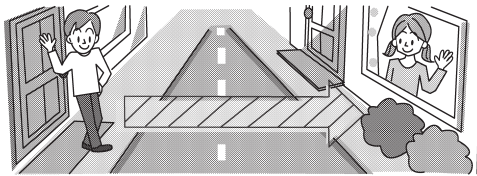
単に語義を図で示すだけではなく、できるだけ語の全体の意味をつかめる基本義を図版化するように心掛けました。また日常の身近な場面を設定して、すぐ使える表現をイメージごと覚えられるようにしています。

across では用例に次のイラストを付けました。

- go across the road 道路を横断する。



・Susie lives **across** the street from Tom. スージーはトムの家と通りをはさんで向こう側に住んでいる。



この2つのイラストを見ることによって「…を横切って」と「…の向こう側に」の意味が理解しやすくなるでしょう。

■ベーシック単語カード

BG2は重要語に「ベーシック単語カード」を置いています。下は change にあるものです。

- 変える, …を取り換える, 変わる**
変化, 交換, つり銭
よく使う表現
- ▶ She **changed** her mind. 彼女は気が変わった。
 - ▶ **change** trains at A A で電車を乗り換える
 - ▶ The traffic light **changed**. 信号が変わった。
 - ▶ **Keep the change**. おつりは取っておいてください。

生徒にこのベーシック単語カードを確認させることで、1つの単語がいくつかの意味を持っている場合も多いこと、さらに用例でよく使う表現にも触れさせることで単語の広がり認識させることができるのではないのでしょうか。

まず重要な意味のまとめを見ることによって change の主要な意味がわかり、動詞だけではなく名詞もあること、動詞と名詞の意味が相互に関連していることがわかります。また G5と異なって **よく使う表現** として用例がついています。短くて分かりやすい英語による見出し語の使い方です。上の語義に対応していて、初めの2つは他動詞（…を変える）、次の用例は自動詞（変わる）、最後は名詞（つり銭）です。この部分を読むだけ

で語の全体像がつかめることがねらいです。

語全体のイメージを把握すると個々の語義も理解しやすくなります。また実際の英文で意味がわからなくても、意味を推測するのも役立つかと思います。これは語彙習得の重要なポイントです。是非活用していただきたいと思います。

■ベーシックな語法解説

BG2では語法を**使い方**として解説していますが、G5にはない基本的なことも取り上げています。次は some **形**「①いくらかの」の例です。

使い方

(1)この意味では数えられる名詞 ([C]) の複数形または数えられない名詞 ([U]) の前につける：

- ・some books [× book] 何冊かの本。
- ・some bread いくらかのパン。

(2)some は肯定文で使い、疑問文・否定文・if [whether] 節では **any** を使うのがふつう：…

G5では「肯定文で；～+[C]名詞複数形；～+[U]名詞」と短く注記されているだけですが、BG2の利用者には詳しい説明が必要だとの思いで、用例を付けてコラムとしたものです。

■おわりに

ある大学生に He is particular about his clothes. (彼は衣服にうるさい) という文の particular の意味を問うたところ、「ラテン語」と答えました。よく聞いてみると電子辞書で『ジーニアス英和大辞典』の particular の項を開け、最初の行にある語源欄の「ラテン語 particularis (小部分の)」の部分を語義であると読み誤っていました。辞書は使い慣れることが肝心です。初級者はまずは BG2をよく使いこんで、求める情報を素早く引き出すことができるよう検索技術を養い、学力がついた時に、上級の辞書に切り替えることが望ましいでしょう。

(はたけやま としかず・大阪国際大学名誉教授)